

第2学年＊組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 富塚 貴子

R3研修センター長期研修

1 題材名 家族や地域の高齢者との関わり

2 本題材の目標

- (1) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解する。 (知識及び技能)
- (2) 高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、地域の人々との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。 知②高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。	思①高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想している。 思②実践を評価・改善し、課題の解決に向けて、考察したことを論理的に表現している。	態①高齢者など地域の人々との関わりについて、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 態②課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 態③高齢者など地域の人々との関わりについて、工夫し創造し、実践しようとしている。

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成29年7月）A(3)ア(i)、A(3)イを受けた内容である。自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや、高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方について理解できるようにする。また、高齢者など地域の人々と関わり協働する方法についての課題を解決するために、アで身に付けた基礎的・基本

的な知識を活用し、協力・協働などの視点から、家族や地域の人々との関わりについて考え、工夫することができるようにすることをねらいとしている。そのためには、高齢者など地域の人々との関わり方についての知識を活用し、主体的・意欲的に課題解決に取り組み、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行うことが大切である。また、学習の進め方として、生徒が主体的に課題に向き合い、段階を追って学習を深められるよう一連の学習過程を適切に組み立てる必要があると考える。

(2) 生徒観

本学級の生徒に対して、「家族との関わり」に関する実態調査（令和3年＊月＊日実施、第2学年＊組＊人）を行った。その結果、問題を見いだし、家族との関わりにおける課題を主体的に捉えることができた生徒は、＊人であった。また、よりよくする方法について既習事項を活用して考えることができた生徒は＊人であり、そのうち、よりよい解決方法を記述した生徒は、＊人であった。このことから、問題を見い出して課題を主体的に捉えることや、既習事項と実生活を結び付けて、協力・協働の視点からよりよい解決方法を考えることなど生活の課題を解決する力が育っていない生徒が多いことが分かった。

(3) 指導観

本題材は、中学校第2学年「家族や地域の高齢者との関わり」の学習において、生活の課題を解決する力を養うために、地域の人々と協働する合同避難訓練を取り入れた学習過程を工夫する。まず、地域との関わりを知るために、自分の生活と地域の関わりから問題を見いだし課題を設定する「地域との関わりを知る学習」を行う。高齢者が地域を支えている取組を映したフォトランゲージなどを通して、生徒一人一人が地域の人々と協働して生活を営む必要があることを理解できるようにする。次に、地域の人々と関わるために、習得した知識を活用して合同避難訓練の計画を立てる「地域の人々と関わる学習」を行う。高齢者の介助体験や避難所設営体験を通して知識を習得し、それらの知識を活用して避難訓練ガイド（以下「ガイド」という。）を作成する。そして、地域の人々と協働するために、ガイドに沿って地域の高齢者との避難訓練を実践し、実践を振り返って評価・改善する「地域の人々と協働する学習」を行う。評価・改善する際には、地域の高齢者のアドバイスを基にガイドを評価・改善する。このように、地域の人々と協働する合同避難訓練を取り入れた学習過程の工夫を行えば、生活の課題を主体的に捉えて、既習事項を活用してよりよい解決方法を考え、実践を振り返り、協力・協働の視点から評価・改善することができるようになり、生活の課題を解決する力を養うことができるのではないかと考える。

5 題材の指導計画（7時間扱い）（○：指導に生かす評価 ◎：記録に残す評価）

時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1 知る学習	地域の人々とのよりよい関わり方とはどのようなものだろうか。 ・登下校の様子などの写真を見て、これまでの地域の人々との関わりを考える。 ・地域のゲストティーチャーの話に基づき、家庭生活と地域との関わりについて話し合う。 ・地域の人々との関わりについての問題点を挙げ、課題を設定する。 自分を含めた家族は地域に支えられているから、自分も地域の一員として参加し協力していくことが大切である。	◎		○		・身近な生活の写真を提示して、課題に対して問題意識をもてるようにする。 思①：地域の人々との関わりについて問題を見いだせない生徒には、自分の生活場面を想起するように助言する。 【ワークシート】 知①【ワークシート】
2 関わる学習	高齢者とどのように関わったらよいだろうか。 ・家庭でのインタビューから、足腰の衰えや加齢性難聴、白内障などの症状を知る。 ・介助をペアで体験する。 (1)立ち上がり、歩行 (2)耳の聞こえ、視力 ・介護福祉士からアドバイスをもらい、再度体験する。 ・身体の特徴を踏まえた高齢者との関わり方についてまとめる。 中学生とは異なる高齢者の身体の特徴に合わせて関わっていく必要がある。	◎				・支える側、支えられる側の気持ちや必要な配慮を考えるよう補足説明する。 ・ペアで介助のポイントを確認し、互いにアドバイスするよう促す。 ・高齢者の聞こえ方のコンテンツを活用し、聞きづらさを実感できるようにする。 知②【ワークシート】
3 4	地域の人々とどのように関わるとよいだろうか。～「OH! NO! 避難プロジェクト」の実践計画を工夫しよう～ ・避難訓練で高齢者など地域の人々と関わり、協働するための課題を設定する。 ・グループで、避難訓練の流れをもとに「受付」「滞在」「生活用品配付」の場面で体験や情報を収集する。 ・既習事項をもとに、高齢者への具体的な関わり方を考え、付箋に書き出す。 ・高齢者との関わり方について、個人で書いた付箋をグループで見合い、シールを貼る。 赤のシール→学習したことを生かしている 緑のシール→協力・協働している ・シールを手がかりに話し合い、グループごとにガイドを作成する。 ・グループごとに、ガイドを発表する。 ・グループの発表を聞いて、自分のガイドの見直しをする。			○	◎	・1時間目に設定した課題を踏まえ、「協力・協働」の視点から課題を設定するよう助言する。 ・他者の意見や新たな情報をもとに検討するよう助言する。 思②：高齢者への関わり方を書けない生徒には、学習したことを確認したり、友達の意見を参考にしたりするよう助言する。 【ワークシート】 態①【ワークシート、行動観察】 思①【ガイド】

5 協働する学習	地域の人々とどのように関わるとよいだろうか。～「OH! NO! 避難プロジェクト」を実践しよう～ ・ 避難経路や作成したガイドの内容についてグループで確認をし、見通しをもつ。 ・ 大野まちづくりセンターから、地域の高齢者と共に大野中の体育館へ避難する。 ・ 避難後、避難場所でテントや段ボールベッドなどを設営する。 ・ 一緒に活動した高齢者に、感想を聞く。 ・ 実践してみて、分かったことや次の取り組みに向けての改善点をまとめる。				・ 学んだことを想起させ、活動の見通しをもてるようにする。 ・ 高齢者の身体的特徴に合わせて避難するとともに、「協力・協働」の視点から地域の一員として進んで活動するよう助言する。 ◎ 態②【振り返りカード、行動観察】
6 7 本時	これから、地域の人々とどのように関わるとよいだろうか。 ・ 前時の避難訓練の実践について、個人→グループで評価する。その際、理由を書き加える。 赤ペン→さらによりよくするために 青ペン→実践できなかった理由 ・ グループごとに発表したり、聞いたことを質問したりして参考になる考えをメモする。 ・ 他の班から得たことを、グループで共有、整理してガイドを改善する。 ・ 地域の高齢者や友だちの意見も参考に、自分のガイドを改善する。 ・ 地域の人々と今後どのように関わるとよいか、地域の高齢者とともにグループで話し合いをする。 ・ クラス全体で共有し、今後の高齢者など地域の人々との関わりについてまとめる。 地域の行事等に地域の一員として積極的に参加し、地域の人々と協働していきたい。			◎ ◎	・ 実践活動の写真を提示して、評価・改善につなげられるようにする。 ・ よい考えを賞賛するとともに、改善案の書けない生徒には、グループでの改善案を参考に思考できるように促す。 ・ クラス全体で共有することにより、実生活での「協力・協働」につなげられるようにする。 思②【がけ、行動観察】 ◎ 態③【振り返りカード、ワークシート】